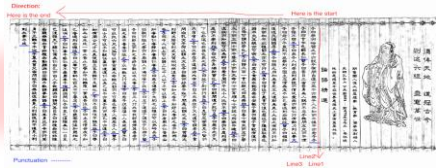


春は来ぬき



今年もまた、新たな生命の息吹を生み出す清々しい季節が到来しました。新入生や新入社員たちが胸はずませて新たな社会へと飛び立つ季節であり、私たちの周囲にはフレッシュなエネルギーが満ち溢れています。今日から始まる2024年度は、私たち錬聖会にとって「20周年」という節目の年です。先ずもって、これまで支援していただいた関係各位に心より厚く御礼申し上げます。そして、共に歩んでいただいた道場生をはじめとする関係者全員で喜びを分かち合うと共に、さらなる活動の充実に向けた決意を新たにすることです。現在、20周年にちなんだ行事等を検討しており、決まり次第お知らせいたしますので、ぜひ、積極的なご参加をお願いします。

さて、私はサラリーマン生活から離れて二度目の春を迎えます。月に2回(延べ4日間)の東京道場での稽古や月に一度の在阪奈合同練習、さらには在阪奈各道場などへの巡訪といった空手の普及活動も定着し、お蔭さまで結構充実した日々を送っています。そして、空手以外の日課は「読書、とりわけ“論語”を読み返すこと」と「独学での英会話レッスン」です。いずれもサラリーマン時代に十分できなかったことです。本稿では、私自身が日々の生活において、特に心に染みる論語(孔子)の教えをご紹介します。



子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者

(子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず)

直訳すると、「物事(仕事や趣味など)をやっていく上で、その物事に関する知識を持っていることは有利なことだが、その物事を好きな人にはかなわない。また、その好きな人であっても、その物事を楽しんでいる人には及ばない」という意味です。たとえば、MLBドジャースの大谷選手を見ていると、まさに“野球を楽しんでいる”感じが伝わってきます。もちろん、肉体的に辛いトレーニングもあり、精神的なプレッシャーも凄まじいでしょうが、彼はそれらを含めて“楽しんでいる(境地に達している)”ように思います。そのことが彼の超人的な活躍の原動力になっているのでしょう。

私たちも、空手に臨む姿勢として、ぜひ、心がけたい教えだと考えます。空手道(の修行)を楽しむ・・・そのためにも、自ら目標を立て、小さな成長を実感できるように練習を工夫することが大切です。日々の積み重ねが、自身の身体に・精神に・生活に、必ず良い変化をもたらしてくれています。その変化をしっかりと感じるのが“空手道を楽しむ秘訣”ではないかと私は考えています。

子曰、学如不及、猶恐失之

(子曰わく、学は及ばざるが如くするも、なおこれを失わんことを恐る)

直訳すると、「物事を学ぶ上で、まだまだ自分は十分ではないという思いを持ち続けることは重要であるが、所定の学習期間を終えたことで安堵し後の努力を怠り、学んだことを失わないように注意しなければならない」という意味です。

空手道の修行において、たとえば、黒帯を取得した(一定の知識とスキルを習得した)からといって、その後の修行を怠ると、たちまち動きは鈍り、技のレベルが低下し、せっかく習得したはずのことまで出来なくなる・・・目標を失うと想像以上に早く劣化するので、常に志(新たな目標)をもって前進しようとする姿勢が大切！だということかと思えます。

皆さんもご承知の通り、論語は孔子(B.C.551～)の教えを彼の死後、弟子・孫弟子たちが全20章 / 502章句に編纂・編集したものです。それらのなかには「温故而知新、可以為師矣(故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る、以って師と為るべし)」等々誰もが一度は耳にしたことがある教えがいくつも存在しており、現代社会にて忘れられつつある重要な心構えなどを再認識させてくれます。なお、上記に紹介した2つの教えに関する解説は、あくまで私が理解するところであり、他にも異なる解説が数多存在することを申し添えます。

さて、取り留めのない話になってしまいましたが、2024年度も、明るく元気に、関係者全員で空手道に励んでいきたいと存じますので、皆さまの積極的な活動へのご参加を心よりお願い申し上げます。

2024年 4月 1日



日本空手道錬聖会
会長 森 拓生